

答 申 書 (外部評価意見書)

答 申 書 (外部評価意見書)

函館工業高等専門学校長 殿

下記のとおり答申いたしますので、よろしくお願いいたします。

第1章 教育理念・目標について

教育理念や教育目標は適切であり、理念・目標に向かって積極的に教育改善に取り組んでいることは評価できる。また、18年度 JABEE 受審に向けて準備が進められており、高品質の教育システムを確立しようとしている姿勢も評価できる。地域社会や企業の発展への貢献については、地域の経済状況を反映した、より強固なシステム造りが必要である。

第2章 本科の教育活動について

社会の変化に合わせて学科の改組を実施し、道南地域における工学系高等教育機関としての役割を果たしてきたことは評価できる。また、PBL やインターシップ制度の導入、ロングホームルーム、新入生宿泊研修、父母懇談会等も、教育効果の向上や、学生支援策の強化に貢献していて評価できるし、就職内定率、大学・専攻科への進学率も 100% であることは評価できる。今後は進学基準の厳格化、循環型社会を志向する、環境に配慮したものづくり教育、それに 5 年一貫教育のメリットを生かした日本語・外国語教育のさらなる充実が望まれる。

第3章 専攻科の教育活動について

専攻科の構成それに、深い専門性の追求と複合分野への対応力のあるより実践的な技術者の育成を目指した教育目標はともに適切であり評価に値する。また、本科との連携、PBL の導入、授業アンケートと授業改善への努力は評価できる。今後は、専攻科の PR、本科と専攻科間の授業科目の流れの明確化が必要であるし、教員の学位取得率の向上と JABEE プログラムの認定により専攻科教育が一層充実することが期待される。

第4章 学生の受入れについて

少子化の進行する中、アドミッション・ポリシーの制定とその公表方法は適切であるし、広報活動も学校説明会、学校見学会、一日体験学習と多様であり、その努力は評価できる。また一般選抜の他に、推薦入試、複数受験、社会人入試制度など多様な選抜方式を取り入れていることも評価できる。留学生については、東南アジアなど開発途上の国々からが多いが、文化風習の違いを乗り越え、教育活動を展開してきた事

と宿舎でのきめ細かい対応は評価できる。

第5章 学生支援について

入学時の宿泊研修及びガイダンスも徹底しているし、オフィスアワーの設定、カウンセリングルームの設置等学生の相談機能も充実していて評価できる。また、学生支援組織（育成会）からの援助を有効に活用し、学生の課外活動支援、研究成果発表会参加支援を積極的に行っていることは評価できるし、それらの活動を支える組織の充実も評価できる。さらに、英検2級等資格を取得した学生に対する特別な措置も、学生の勉学意欲を高める上で有効である。学生の就職については、一応100%となっはいるが、今後は全校挙げての支援が必要であると思われる。

第6章 施設・設備について

施設の老朽化に対して、きめ細かい点検がなされ、平成14、15年には校舎も改修されていて、充分とは言えないまでも整備が行き届いている点は評価できる。また、設備については最先端の教育に沿ったプログラム演習室、CAD演習室、実習工場、地域共同テクノセンターが整備されているし、障害者に対する各施設の設置も評価される。今後は、情報処理関連設備の利用時間延長、函館市内の高等教育機関との連携による設備の共同利用の推進、総合グラウンドの量的整備が望まれる。

第7章 教育改善活動について

FD活動、学生の授業理解アンケート調査と結果のフィードバック、教育改善研修会の実施、父母授業参観と懇談会の実施、校長・副校長による授業参観とそのフィードバック等、教育改善面における自己点検の基本サイクルが構築されていて、継続的に教育を改善する仕組みが機能していることは高く評価できる。

第8章 管理運営について

地域に果たす役割を重視した個性ある高等教育機関を目指し、校長のリーダーシップを発揮できるよう補佐体制も整備されているし、多様な委員会を設けて学校運営の円滑化と教育効果の向上を図っていることは評価できる。また、教員の配置も長期的な展望に基づいた配置となっているが、今後は、全教員が専攻科を担当できるよう採用に際して十分な配慮が必要である。

第9章 研究活動について

教育負担が多い高専において、各教員が研究成果を挙げることは、かなりの困難が伴うと同時に努力が必要となることは理解できるが、他の高等教育機関との差別化や地域企業との連携を強化するためには、各教員がそれぞれの研究分野で研究成果を挙げていくことが重要である。その意味で、学科横断型のプロジェクト研究のように組織的に研究テーマ等を決めて、組織的に研究強化に強めていくことは重要である。また同時に、科研費へ積極的な申請、外部研究資金の積極的な導入についても一層の努力が期待される。

第10章 社会との連携について

公開講座の実施，大学・高専・工業技術センターによるセンター連携会議の設置，都市エリア産学官連携推進事業への参画などを通じて，地域社会に対し開かれた高専を目指すとともに，それらに対応した組織を設置していることは高く評価できる。今後は，テクノセンターの積極的活用とその運営組織の構築，独自の学外からの資金確保の方策を検討すべきであろう。

第11章 外部評価について

学内の自己点検・評価ワーキンググループと JABEE 対応部会の積極的な活動により全学的評価体制が確立していることは評価できる。今後は，評価に対する分析や，改善を着実に実行しスパイラルアップを図っていくことが重要となるし，JABEE 審査や機関別認証評価を見据えて，企業や卒業生の意見をも取り込んだ評価が期待される。

その他 全体としてのご意見

教育理念・目標の達成にむけて，校長のリーダーシップと機能的な組織体制により，着実に努力していることは評価できる。また，「自己点検・評価報告書」では，現在の問題点や課題が率直に指摘されており，改善点が明確にされていることから，より良い教育・研究体制が確立されることを期待する。貴校は，地域にとって欠かすことの出来ない高等教育研究機関であり，今後のますますの発展を期待したい。